

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、住み慣れた地域で家庭的な環境のもと・・・』と事業所独自の理念を掲げている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員参加の学習会や毎朝のミーティングにおいて必ず理念を振り返っており、又職員は自分のことばで理念を語る事が出来、常に理念を意識しながら実践に取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	近所の方への挨拶、地域のお店へ買い物に行くことにより、親睦を深めるように努めている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所に散歩に出かけ、庭の花や畑仕事を見せていただきながら、挨拶やお話をして、気軽に来苑して頂けるように、声掛けを行っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や隣接している知的障害者施設の学園祭等に招待され参加したり、子供会の廃品回収、公民館掃除、学校跡の草取りなどに参加して地域に密着した交流に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々と立ち話や見学時に相談や悩みなどを受け、職員間で話し合いを行い適切なアドバイスを行えるように努めている、また民生委員の方にお手伝いできる事があれば、いつでも声かけして頂く様にお願いしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員参加の学習会において評価の目的や意義、評価内容を理解し、自己評価に取り組む中で気づきや改善策を話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、部長、職員が参加している。利用者の暮らしぶりやサービスなどを報告し、意見を聞いたり、討議した事を学習会などで十分に検討し、サービスの向上に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月第2火曜日の10時から12時まで市の介護相談員1名に来ていただき、利用者や職員の相談に対応してもらっている。また職員が介護保険課に出向き相談することもある		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修への参加や学習会で勉強を重ね、制度や活用についての理解を深めている。利用者や家族には契約時に説明しているが、ホーム便りや家族会でも折に触れて話している		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の学習会の中で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、支援を行う上で虐待に関する意識を常に持ち、虐待の防止の徹底をはかっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族の方やご本人と何度も話し合いを行い、一つ一つ納得が行くまで説明を行うように心がけている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受け付け窓口の担当職員を配置し、気軽に苦情や不満、意見が言えるように対応を行っている。また貴重な意見や苦情、不満を受け付けたり、気づいたときは職員全員で話し合い、検討して改善を行い家族を交えて話し合いを行ったり、家族へ密に報告を行う。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時や毎月発行しているひまわり便り、更に2ヶ月に1回家族会の開催の機会に利用者の暮らしぶりや職員の異動を報告している。金銭管理については出納のチェックと押印をして確認をさせていただいている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>誰でも、ホームやホームの運営に関する意見、不満、苦情等を表せるように意見箱を設置している。また、家族来苑時のもとより、苑外レクリェーションに積極的に参加していただく等、ご家族との意見交換の場作りに配慮している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>事業所学習会にて、スタッフ全員が意見や提案を述べやすい雰囲気づくりを心がけ、積極的に発表してもらっている、内容は会議録に起こして、運営やサービスに反映している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>急な病院受診や家族会などの行事、運営推進会議、その他利用者の状況に応じ、スタッフが必要なときは、勤務を調整するようしており、そのための話し合いも行っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者や家族の混乱を避けるため、異動は必要最小限に抑えるようにし、またスタッフが離職しないような働きやすい環境作りにも努めている。やむを得ず代わる場合は利用者や家族に予め説明を行い理解を求めている</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集、採用時は性別や年齢などの理由のみで採否を決めず、応募者の熱意や人間性、適性を最重視した採用を行っている。また実際に働いている職員についても、個々の能力や適性、職種に応じて意欲を持って働く事が出来る様に配慮しており、研修参加や資格取得のためのバックアップ、自分の意見を自由に述べられる雰囲気づくりを行っている</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>事業所の今年度の目標として個別ケアの実践(サービスの質の向上)を掲げてその方らしい生活を援助するとしており、願い、希望、環境、可能性などを学習会などで情報を把握し実践しており、また日常での態度や言葉使いに注意を払うように指導している</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間事業計画を立てて、施設目標に沿って、各個人目標を立て、それを実践し評価している。法人内の交換研修や介護技術研修、認知症研修などへの参加を積極的に勧めたり、日々目標を持って業務に取り組むように促している</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日頃から、同業者との交流を図る事の出来る機会を設けようと検討している。法人内全体で活用している目標チャレンジシートにも、部門・個人目標として地域内の他事業所への訪問、関連してネットワーク・交流作りをあげており、関連施設への交換研修など行ってサービスの向上に活かしている</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は個別に声掛けを行い、面談にて相談を受けている。必要に応じて意見交換の時間を作り意見を出しやすいような雰囲気作りを行っている。また法人の職員全部の親睦を図るため、ビアパーティー・忘年会や慰安旅行を行っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員による年2回のチャレンジシートの記入と報告により自己評価状況の把握を行っている。また外部の専門機関において研修する機会を設けて各自が目的を持つことが出来るよう努めている</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の訴えを傾聴することを心がけており、何を望んでいるのかじっくりと聞く姿勢を大事にして、否定せずに受容する事を第一に考えた信頼関係づくりを念頭においている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申込みに対しては、利用者家族の意向、希望、不安な点等聴取し、施設のほうからは理念、運営方針、重要事項説明書などを説明、利用者や家族の思いに添えるという姿勢で信頼関係を築いている</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>御本人、ご家族、支援専門員、主治医、その他、必要に応じて各専門分野の方々と連携をとりながら、必要なサービスを見極めて提供を行うように心がけ、御本人、ご家族のニーズに応えるように行っている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族から相談があったときは最初にホームの見学を勧め、居室やお手洗い、浴室、居間、ベランダなどすべての生活空間を実際に見て頂き、利用に納得したうえで入居手続きをとって頂く様にしている。入居後も職員が本人に積極的に声掛けを行い、他の利用者や職員、ホームの雰囲気に馴染む事が出来る様に支援している</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の希望や自立を支援するサービスの提供に努めている。1日の生活を共にしながら、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを常に持ち、利用者の話を聞く事から始め、安心と安全を認識してもらう事でお互いの気持ちが通じ合い、信頼関係を構築している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や定期的に行う家族会で本人、家族のニーズ把握に努め、一方的な支援にならないよう心がけている。本人、家族と共に楽しみや悲しみを共有しながら本人を支援していく事が出来る関係作りを大切にしている		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	プライバシーに配慮しながら、本人の生活歴や在宅時の家族との関係について理解できるよう心がけ、個別ケア提供の実現を図りながら、より良い関係が継続できるよう支援している		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日課となっている散歩や苑外レクリエーションを通じて、各利用者が住みなれていた地域の友人や親類、場所を訪問して関係が継続出来る様に支援している。また家族に働きかけ、施設への訪問を依頼している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活において職員が利用者同士の関係を理解して、仲の良い利用者同士が隣の席に座っていただけるよう配慮したり接点の少ない利用者同士に対しては、職員が中に入り共通の話題を提供する事で、利用者同士がお互いを理解できるよう心がけている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も必要に応じて連絡をとり、他の在宅、施設サービスを紹介したり、本人や家族の相談に乗ることで、不安な気持ちを解消出来る様に努めている		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が随時声掛けを行いながら、利用者個々の様々なニーズの把握に努めている。困難な場合には、利用者本位のサービス提供が行えるように検討している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、利用者個々の生活歴やなじみの人、場所の把握に努めている。また本人、家族との面談時に今まで利用されてきたサービスの種類や頻度、結果などについてよく話を聞き、理解するよう心がけている		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の1日の過ごし方や心身状態を具体的にケース記録や連絡ノートに記し、職員全員が必ず目を通すにしている。また料理の下準備や掃除、洗濯物たたみ、草取りなど、利用者個々の状況に応じて出来る事を見極めながら手伝っていただき、現状を総合的に把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的開催して、利用者個々の課題とケアのあり方について検討を行っている。また本人、家族、主治医と話し合い、ニーズや意見を汲み取り、同意を得た上で利用者本意の介護計画を作成しており、チーム全体でのケアを心がけている		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。計画期間中に状態に変化が起きて計画を変更する必要がある場合は、本人、家族、関係者やスタッフと話し合い、同意を得て新たな介護計画を作成している		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の1日の生活の様子や提供した介護ケアの内容、結果、それに対して気づいた事などを個別ケース記録に記入して、毎朝の申し送りやカンファレンスにて確実に職員間で伝達し、より良いケアの実践、介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常のコミュニケーションや職員カンファレンス、面会時などを通じて、本人や家族のおかれている状況やニーズを随時把握するように努め、地域密着型サービスの利点を活かした柔軟な支援に結び付けていけるように努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的開催する運営推進会議に地区会長に参加していただいたり、消防署職員立会での避難訓練、地区でのボランティアの方の支援を頂いたり、地域包括支援センターなど各機関と協力しながら利用者へ支援している		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の特養、居宅、通所などと話し合いをもち、情報交換しながら、利用者が求めているサービスや必要なサービスの提供が出来るよう行っている		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的開催する運営推進会議にて地域包括支援センターの担当職員に参加していただき、助言を受けながら日常の支援に活かしている。権利擁護事業や総合的かつ長期的なケアマネジメントなどについても情報交換や今後の介護サービス計画について助言などをおりこむ計画を立て、介護サービス計画書にも目を通して頂き経過報告を行い協働を行う		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を聞き、同意、納得が得られたかかりつけ医と信頼関係をきずく事が出来る様に留意しながら、本人の身体状況に応じた適切な受診介助にて、いつまでも健康で過ごしていただけるよう支援している		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの近くにある。病院の医師に2週間に1度往診していただき適切な診断や治療、専門機関への紹介などしていただいております。相談しやすい環境である		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの近くにある。かかりつけの医療機関の看護師や併設の特別養護老人ホームの看護婦と連絡を取りながら支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院されたときは職員が面会に行き、不安感が軽減するように努めている。そしてなるべく早く退院出来る様に、主治医や看護師、医療ソーシャルワーカーなどと情報交換や相談を行うようにしており、日頃からも連携をとっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の職員体制(医療連携なし)では、看取り不可能。重度化すれば関連施設で対応		重度化した場合や終末期を迎えたときも、その人らしい最期を過ごす事が出来る様、早期の段階から利用者本人や家族、かかりつけ医などと今後のケアの方針について納得が行くまで話し合っ、チーム全員で共有出来る様に努めたい
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎朝のミーティングや定期的・随時行うカンファレンスにて、当ホームで出来ること出来ないことを明確にしながら、かかりつけ医への状態報告を通じてチームとしての支援を心がけ。また今後にも備えカンファレンスにて支援方法の検討や準備をしている		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人が別の居所に移るときは、本人や家族から同意を得た上で必要な情報を関係者に提供したり面談を行って、スムーズに新しい環境でその人らしく生活出来る様に努めている		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する人格の尊重を根源に、常に対等な立場で傾聴する姿勢を心がけ、記録などの個人情報の保護について十分理解しており、遺漏のないよう全職員で徹底している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個々のコミュニケーション能力を把握して、それに応じた個別ケアの提供により本人が意思や希望を表しやすく、満足した自己決定が出来る様支援している		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重して、ゆったりとした雰囲気の中、その日をどのように過ごしたいのかといった希望に添えるような支援を心がけている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝は洗面、整容介助を欠かさず行い、更衣時も本人が着たい洋服を着て頂く様にしている。理容美容も本人がいきいたいという店があるときは、家族とも相談し希望をかなえている。他に月1回美容師が来園して、カットなど個別に対応している		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを聞いて献立を決めたり、利用者一人ひとりの能力に応じてもやしや芽つみや生姜すり、皮むきなどを手伝っていただいている、食事も職員が利用者と一緒に食事を摂るようにしているが、食事時は静かに食べたいと言われる利用者が多いので必要以上に話し掛けしないように配慮している、他には引き膳、テーブル拭きをしていただいている		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりに好きな食べ物や飲み物おやつを聞き希望に添えるよう配慮しているが、栄養バランスも考えながら毎日の献立決めを行っている		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりのADLを把握して、個々の排泄パターンに応じて声掛け・トイレ介助を行い、排泄の失敗がないよう、また安易なおムツの使用をせずに、安心して排泄が出来る様に職員全員で取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな曜日や時間帯は決めているが、利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴日や時間を決めて、利用者が気持ちよく安心して入浴出来る様に支援している		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣やその日の体調を把握・観察して休息が必要と考えられるときは自室にて静かに安心して横になって頂いたり、夜間も静かな環境作りを心がけて、安眠できるように努めている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、本人が得意とする事や興味を持っていること、出来る事(朝の雑巾がけ掃除や料理の下ごしらえ、洗濯物干しやたたみ、畑仕事や花の手入れ)を見付け出しながら負担にならない範囲で手伝っていただいて、役割や楽しみ度の支援を行っている		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理が出来る方はすべて本人に任せている。その他の方は施設管理として、必要な時には本人に渡して、自由に買い物や理美容代などに使っている		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聞きながら散歩に出かけたり、ドライブに行ったり買い物に同伴したりと、なるべく戸外に出掛けるように努めている。また、季節を感じられる行事や風景を見物にしている		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の家族が入院している病院への面会や買い物、美術館見物など、状況に応じて家族の協力を得ながら外出支援と定期的な苑外レクリエーションを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望されたときは、施設の電話機の子機を居室に持って行き、気兼ねなく話ができる様心がけている		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問(面会)時間を9時から20時と長く設けている。また利用者者と訪問者が談笑されている時は、職員は必要以上に話しかけたりしないように留意しており、ゆっくりと落ち着いて話す事が出来る様な環境作りに努めている。また、何度も気軽に訪問が出来るよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員がきちんと理解出来ており、日頃から身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかける事が拘束や心理的圧迫に繋がることから、日中は鍵を掛けていない。万が一の事故に備えて玄関にセンサーを取り付けており、事故防止に努めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者本人の生活リズムに必要以上に干渉しないように留意しながら、常に利用者の所在は確認している。また表情や言動をきちんと観察して、利用者が安全に生活できるよう配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の理解度や能力に応じて保管・管理が必要な物品を決めている。注意を要する物品を扱うときは職員が付き添って、事故などが起きないように取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成しており、職員全員が事故防止のための知識の習得に努め、利用者一人ひとりのADLに応じて事故を防ぐ事が出来る様心がけている		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度、法人全体で消防署職員の指導の下で救急救命講習を行っており、ホームの職員も全員参加して、AEDの使い方や人工呼吸・心臓マッサージのやり方を学び、急変や事故発生時に備えている。また併設の特養看護師から医学知識の習得を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員立会いの下で定期的に避難訓練を行っており、災害発生時には利用者が安全に避難出来る様、消火器や通報装置の設置場所、誘導・避難経路・場所を把握している。また災害時に地域の人々の協力を得られるように働きかけている。また毎月の学習会で災害時に速やかに対応できる様研修を行っている		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	初回の契約時や入居後の面会・家族会などにおいて、家族に日常生活で起こるリスク以外に利用者個人個人のリスクについて説明し、拘束することなく利用者が安心して暮らせるよう、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや体重測定、食事の摂取量や排泄の回数などを記録しながら一人ひとりの状態変化の早期発見に努め、変化に気づいたときは適切な介護の提供や家族への報告・病院受診介助といった対応に結び付けていると共に、全職員に周知徹底している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、一人ひとりが服用している薬の内容について、薬の手帳や個人ファイルの記録を見て理解しており、必要に応じて服薬介助・管理・受薬支援、症状の変化の確認も行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から野菜や植物繊維の多い食材を料理に用いるようにしたり、水分補給に低脂肪牛乳などを使用している。他、腹部マッサージやラジオ体操・散歩等運動する機会を設けて便秘の予防に取り組んでおり、便秘症状になっても安易に下剤に頼らないように努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きやうがい・義歯の洗浄を一人ひとりの口腔状態やADLに応じたケアを行い、虫歯や歯槽膿漏などの疾病を未然に防ぐよう心がけている		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日頃の運動量や身体状況を考えながら摂取量を決め、栄養バランスの取れた食事を提供している。水分補給も起床後や入浴後・外出後は必ず補給したり、気温の高い季節は多めの補給を心がけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症に関する感染症マニュアル情報をもとに、予防策を職員全員で実行している		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際はまず職員が手指を洗浄・消毒して、台所や調理用具も除菌剤を使用して清潔に保っている。食材もまとめ買いし過ぎないように気をつけ、調理時は十分に加熱していつも新鮮で安全な食材を使用できるよう管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の入り口に看板を立てて、訪問者がホームの所在を分かりやすいようにしている。出入り口は玄関のほかに駐車場から入りやすいよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は扉やカーテンを適宜利用しながら不快な音や光がないように留意している。また、自宅での生活をイメージした椅子やテーブル・掛け時計をおいたり、季節に応じた絵などをかける事によって居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはゆったりと座れるソファを置いて、一人で落ち着いて過ごすことが出来る様に工夫したり、気の合った利用者同士が居間で同じテーブルに座っていただけるようにするなど、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が好きなものや使い慣れたもの、思い出のある家具や寝具、写真などを置くなど、本人が家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう工夫している。日差しが強いときもカーテンを利用するなど配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い新鮮な空気を取り込むように配慮している。温度調節は居間に温度・湿度計を置いて、外気温と大きな差がでないように温度調節を行って、利用者の状況に応じた室内温度になるように努めている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー設計になっており、廊下やトイレ・浴室には手すりを設置したり、段差を解消しており、転倒などの事故防止を図りながら利用者が安全に自立した生活ができるよう配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの理解力に応じて、わかりやすいようにゆっくりと丁寧に声掛けする事で、混乱や失敗のない自立した生活を送る事が出来る様に努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に畑を作って、利用者と職員が一緒になって種まきや水やりを楽しんだり、飼い犬と一緒に餌をあげたりしている。ベランダはスペースを広く取っており、利用者が洗濯物を干したり取り込んだりして、活気ある日常生活が送れるように工夫している		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の理念や運営方針に基づき、利用者主体・人格尊重・自立支援を念頭に、自宅と同じように家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりと生活出来る様に心がけています。職員は優しい話し方・態度で接し、笑顔を絶やさず、必要以上に手を出さないといった介護サービスの提供を実践しています。利用者が自分で出来ることや興味のあることなど、会話の中から気づき、常に新しい取り組みを考え、個々の能力に応じた役割を持ってもらうことで生活の質の向上を図り、楽しく穏やかに、生活を行えるように自立支援の実現をめざします